

令和6年度事業報告書

1 概要

京都の伝統・文化や暮らしを支えてきた「京都の自然の恵み」を守り、次世代につないでいくため、生物多様性に関する情報を正確かつ継続的に把握し、収集された知見を基に、生物多様性に係る理解促進や担い手育成、地域や企業の保全活動の支援等を行うとともに、保全に係る様々な主体の連携・協力関係を構築し、効果的かつ持続可能な生物多様性保全に向けて取り組んだ。

センター開設から2年目を迎え、令和6年度は「収集」「利活用」「継承」等の各分野の取組の他、企業向けセミナーや流域連携の取組の強化、生物と文化の多様性の視点による機運醸成など、生物多様性の主流化に向けた事業を展開した。

<主な事業内容と実績>

分野	主な項目	実績等	
			5年度
収 集	生物多様性情報の集積・データベース化 ・生物多様性情報基盤構築事業（府立大学委託）	8分類群（植物・鳥類の2分類群追加） 109,762件登録 （累積161,617件）	6分類群 14,627件登録 （累積51,855件）
利活用	多様な主体のネットワーク形成 ・きょうと☆いきものフェス！2024 ・きょうと☆いきもの調査（どんぐり） ・重点連携施設とのイベントの実施 ・流域連携フォーラムの開催 ・学校、企業等への講師派遣	参加団体：77 来場者：約11,000人 報告件数：51件 イベント数：8回 参加者：179人 講師派遣：19回	参加団体：50 来場者：約5,000人 報告件数：34件 イベント数：4回 － 講演：6回
	保全活動のコーディネート ・企業・団体等のコーディネート	件数：40件	件数：37件
	相談対応・助言・提案 ・来所・電話等相談対応 ・企業向けセミナー ・自然共生サイト認定数	延べ567人 4回、延べ322人 10件（計12件）	延べ426人 － 2件
	調査・研究 ・公共事業等への活用 ・生物多様性地域資源可能性調査 ・生物多様性保全上のポテンシャル調査	12件 1事業 1事業	11件 1事業 －
継 承	環境学習・担い手育成及び情報発信 ・京都ならではの生物多様性の発信 ・交流オフィスにおける環境学習	2事業、参加者100人 主催：3事業、57人	－ －

分野	主な項目	実績等	
		5年度	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連施設等と連携した環境学習 ・ 担い手育成研修会 センター事業の広報・情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ ブース出展等 ・ SNSによる情報発信 ・ メールマガジン ・ 広報誌 ・ 年報 	10事業、参加者 416人 3回、参加者 37人 9箇所 X：32件 Instagram：30件 登録者：1,076人 R7.3第2号発行 R7.3発行(R5年度)	6事業、339人 3回、43人 10箇所 X：28件 Instagram：10件 登録者：385人 R6.3第1号発行 —
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 賛助会員 ・ パートナーシップ協定締結 	企業6、個人3 企業2（延べ企業3）	企業3、個人3 企業1

2 「収集」分野の事業

(1) 分布などの生物多様性情報の集積・データベース化

ア 情報の集積・整理（希少種、普通種、外来種）

行政、学術文献、保全団体等が保有する京都府内の生物種情報の集積・整理・分析をするため、生物多様性情報基盤構築事業を実施した。令和6年度から新たに植物と鳥類情報の集積を開始し、これまでに161,617件（昆虫類43,317件、両生類5,594件、は虫類3,145件、淡水魚類24,132件、淡水性甲殻類1,558件、淡水貝類994件、鳥類59,214件、植物23,663件）を登録した。

イ 情報の分析

集積した情報は、京都府の公共工事における環境評価への活用など、必要に応じ分析し、活用を行った。

ウ 情報基盤の構築と利活用

情報基盤の構築のため、NASの設置を進めた。

エ 京都府レッドリスト・レッドデータブックの改訂

レッドデータブックフォーラム「レッドデータから見た府の生物多様性～京都府における生物多様性はいかにあるべきか～」を京都府と共催で開催し、各分野の講演や総合討論を通じて今後の生物多様性の保全のあり方について考える機会とした。

- ・ 実施日：令和7年2月22日(土)
- ・ 場 所：京都府立京都学・歴彩館
- ・ 参加者：140名



(2) 各主体における標本・文献等資料の保有状況の把握

ア 標本や文献等資料の保有状況の情報収集

府内高校の標本等保有状況について照会を行い、標本を保有する高校の調査を実施した。また、舞鶴市郷土資料館の標本保管状況を調査した。

日付	内 容	対 象
3月11日	生物室にある標本調査	山城高校
3月17日	同	園部高校
3月18日	丹信實標本の保管状況を調査	舞鶴市郷土資料館
3月18日	生物室にある標本調査	西舞鶴高校

イ 標本、文献資料等の管理体制の検討

上記アの調査に基づき、各施設が保有する情報のリスト化に着手した。

ウ 把握した状況の一元化

上記イのリスト化と合わせて今後検討していく。

エ 標本デジタル化システムの運用

府立植物園の植物標本及び大森文庫のデジタル化を進めた。また、大本花明山植物園の標本のデジタル化に向けた協議を行った。従事するスタッフや関連施設の担当者を対象とした研修を実施したほか、フォーラム「京都の文化と生物多様性 ～動植物標本のデジタル化の意義～」(令和6年3月17日実施)について、センターHPにおいて動画を配信した。

日付	内 容	対 象
5月30日	撮影基礎研修	当センター、府立植物園ボランティア
6月29日	操作基礎・撮影基礎研修	当センター、府立植物園ボランティア、市青少年科学センター
1月24日	操作基礎・ドイツ箱撮影研修	当センター、市青少年科学センター、武田薬用工業(株)京都薬用植物園 他
3月4日	ドイツ箱・液浸標本の撮影研修	当センター、府立植物園ボランティア、市青少年科学センター 他

オ その他

「観察・調査・検索・同定・標本作製技術」の習得を目的に、アザミウマ研究会との共催で、公開セミナー「マイクロ昆虫の世界ーアザミウマにみる多様性ー」を開催した。

- ・実施日：令和6年12月7日(土)～8日(日)
- ・場 所：京都府立大学稲盛記念会館、
京都府立大学下鴨キャンパス
- ・参加者：94名（実習①②、講演含む。）



公開セミナー「マイクロ昆虫の世界ーアザミウマにみる多様性ー」チラシ

3 「利活用」分野の事業

(1) 民間企業や大学等研究機関、保全団体等の多様な主体のネットワーク形成

ア きょうと☆いきものフェス! 2024 の開催

2回目の開催となる「きょうと☆いきものフェス! 2024」を開催し、「推しのいきものをみつけよう!」というサブテーマのもと、保全団体等のブース出展やワークショップ、高校生などの活動発表などを行った。1日目は、森林のイベント「森林の魅力を感じin 府立植物園」、2日目は地域振興のイベント「洛北フェス」と同時開催し、昨年度の2倍を超える来場があった。

- ・実施日：令和6年9月28日(土)～29日(日)
- ・場 所：京都府立植物園
- ・参加者：約 11,000 名
- ・出展者：77 団体・個人



「きょうと☆いきものフェス!2024」チラシ

イ きょうと☆いきもの調査の実施

身近な自然環境の現状を把握することを目的に、住民参加型のいきもの調査を実施し、昨年度に引き続き、身近な存在である「ドングリ」を調査の対象とした。

実施期間	対 象	報告件数	報告種数
令和6年9月26日～12月31日	ドングリ	51件	14種



「きょうと☆いきもの調査 2024」チラシ



どんぐりみわけ図鑑

また、大宮交通公園（京都市北区）で10月6日に開催された「どんぐり観察会」にはコーディネーターが講師として参画した。

ウ 重点連携施設と連携したイベント等の実施

4園館連携イベントのほか、府立植物園と連携したイベントを実施した。

実施日	内容	場所	参加者
4月13日	・4園館連携イベント「野生動物学のすすめ 2024」 啓発イベント「「生物多様性ってなに？」をクイズを解きながら一緒に考えてみよう！」を実施	京都市動物園	75名
7月6日	・4園館連携イベント「きょうと☆いのちかがやく博物館」 いきものうんちをテーマに、「フィールドサインクイズ～誰の落とし物？」を実施	梅小路公園	70名
7月28日	・自然観察ツアーin 府立植物園 実際に野外で自然観察をし、府立植物園内を探索して、自分だけの新しい発見をする自然観察ツアーを実施	府立植物園	20名
8月5日	・自由研究サポート！2024 府立植物園、府地球温暖化防止センターと共同で夏休みの自由研究相談会を実施	府立植物園	45名
8月8日	・マイクロプトルの紙飛行機を作ろう！ 府立植物園「恐竜時代の植物展」の連携イベントとして、JT 生命誌研究館の方を講師に子どもを対象としたワークショップを実施	府立植物園	77名
8月24日	・「舞鶴とその周辺の化石」 府立植物園「恐竜時代の植物展」の連携イベントとして、舞鶴市周辺の化石標本等を見ていただきながら、舞鶴市とその周辺の自然の魅力について講演会を実施	府立植物園	40名

実施日	内容	場所	参加者
9月28日	・4園館連携イベント「きょうと☆いのちかがやく博物館」 きょうと☆いきものフェスにおいて、いきものの赤ちゃんをテーマに、各施設が企画を実施。いきものフェス連携イベントとして、飛ぶ種とばしを実施	府立植物園	70名
2月2日	・4園館連携イベント「きょうと☆いのちかがやく博物館」として行われる科博連サイエンスフェスティバルに出展	市青少年科学センター	170名



「マイクロラプトルの紙飛行機を作ろう！」チラシ

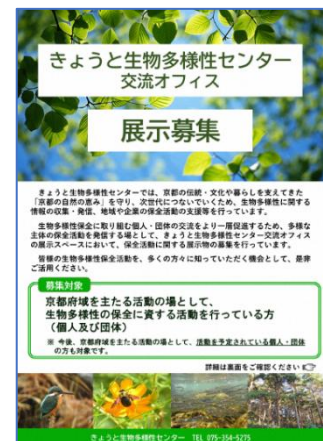


「舞鶴とその周辺の化石」チラシ

エ 交流オフィスを活用したネットワーク化の推進

交流オフィ스가ハブとなる多様な主体のネットワーク化につなげていくため、交流オフィスの展示スペースについて、保全活動に関する展示物の募集を開始（令和6年11月）した。

また、センターが所有・管理し、保全活動に活用できる物品について、学校等教育機関や自然環境保全京都府ネットワークの会員等に貸し出す取組を試行的に開始（令和7年3月）した。



「交流オフィス展示スペース展示募集」チラシ

オ 保全活動参加者や保全エリア関係自治体等が交流するフォーラムの開催

生息・生育地を保全・回復し、将来にわたり生物多様性の恵みを楽しむため、森・里・街・川のエリアごとに生物多様性の保全活動の企画支援・コーディネートを拡充し、新たな活動の創出を促進していく取組が重要である。各エリアにおける取組事例、課題等を共有する「生物多様性に関する流域連携のキックオフ・フォーラム」を実施した。

- ・実施日：令和7年3月9日(日)
- ・場 所：イオンモール京都桂川
- ・参加者：179名（会場93名、オンライン86名）



「生物多様性に関するキックオフ・フォーラム」チラシ

カ 保全団体のネットワーク化の推進

保全団体等とセンターとのより良い連携を進めるため、自然環境保全京都府ネットワークと新たな組織化について協議を進めた。

(自然環境保全京都府ネットワークでは、センターとのよりよい連携に向けて、令和7年度は「センター友の会準備会」として活動を実施されることが決議(令和7年3月9日自然環境保全京都府ネットワーク総会)された。)

キ 講師養成講座の実施や講師認定制度創設の検討

センターへの講師依頼に派遣可能な講師リストの作成を行った。また、講師が使用する共通資料の整備の検討を進めている。

(2) 民間企業や大学等研究機関、保全団体等の連携による保全活動のコーディネート

ア きょうと生物多様性パートナーシップ協定に基づく保全団体への支援

「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」に基づき、センターが保全団体のコーディネートや保全活動の支援等を行った。

協定締結企業	内容
公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金	<ul style="list-style-type: none"> ・琴引浜において、同社と琴引浜の鳴り砂を守る会との海浜清掃や松の伐採の保全活動を実施(令和6年4月13日及び10月27日実施) ・琴引浜鳴き砂文化館のリニューアルに際し、生物多様性コーナーの設置を支援
(株)京都環境保全公社	<ul style="list-style-type: none"> ・花脊地域に生息するチマキザサ保全のため、チマキザサ再生委員会の防鹿柵の設置及びササの移植活動を支援
京都中央信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ・同金庫社内向け研修において生物多様性の講演を実施(令和7年3月24日) ・センターにおいて生物多様性情報データベース化を実施

イ 民間企業等に対する支援の検討

民間企業の自然共生サイトの申請に関する助言や調査者の派遣等を行った。

ウ 保全活動の支援による取組の拡充・創出

生物多様性に関する流域連携のキックオフ・フォーラムを実施した。(再掲)

- ・実施日：令和7年3月9日(日)
- ・場 所：イオンモール京都桂川
- ・参加者：179名(会場93名、オンライン86名)

エ 保全活動における現場立会・助言、専門家等のマッチング

ヤマトサンショウウオの保全に関して、関連する保全団体が集まって勉強会を行った。また、やましる里山の会が行うイタセンパラの復活に向けて、大阪府立環境農林水産総合研究所(生物多様性センター)と意見交換を実施した。

(3) 民間企業や保全団体等の保全活動や事業の際の環境配慮などに関する相談対応

ア 生物多様性に配慮した経済活動の促進(民間企業に対する啓発活動を含む)

令和5年9月のTNFDの公開を踏まえ、企業に求められる役割を知り、行動していくための企業向けのセミナーを京都商工会議所と共同で開催した。

実施日	内 容	場 所	参加者
9月12日	第1回 生物多様性を取り巻く国内外の状況を知る講演、先進企業の事例紹介及びパネルディスカッションを実施	キャンパスプラザ京都	会場 79名 オンライン 136名
10月11日	第2回 企業の取組を知る先進地視察「島津の森」見学	(株)島津製作所	会場 55名
11月8日	第3回 企業の取組を知る先進地視察「雨庭」見学	日新電機(株)	会場 33名
11月31日	第4回 事業活動と生物多様性保全の関わりを考えるワークショップ	京都経済センター	会場 19名



「企業のための生物多様性セミナー」チラシ

イ 民間企業や保全団体等の事業活動や保全活動に対する相談対応

民間企業や保全団体における保全活動等への相談・支援を行った。

企業・団体名	内容
京都産業大学	・商品開発について連携先の相談
KDDI	・府内の保全活動支援について協議 ・環境学習整備について相談
宝が池プリンスホテル	・営巣したムササビの対応について相談
丸山製作所	・ミナミメダカの保全について相談

ウ 民間企業や保全団体等による自然共生サイト等への認定支援

民間企業や保全団体等が自然共生サイトの認定等を目指すにあたり助言やコーディネートを行った。(3団体・企業)

エ 府民等の生きものに関する相談対応

交流オフィス来所、電話、メール等による計 567 名の対応を行った。

主な内容 (取扱注意)
・哲学の道の整備に伴う生物への影響についての対応 ・希少植物の栽培と保全についての対応 ・ビオトープ作りについての対応 ・ヌートリア捕獲についての対応 ・有栖川保全についての対応

(4) 民間企業等に対する情報と専門的知識に基づく助言・提案

ア 環境調査の際の情報提供、助言、提案

公共工事等における情報提供 12 件の対応を行った。

主な内容
・地域振興計画策定における助言 ・砂防工事に対する助言 ・道路工事に対する助言 等

イ 公共事業等の行政施策における環境配慮の取組推進

公共工事における調査等のコーディネートを行った。(1件)

ウ 自然共生サイトの認定促進

自然共生サイトの認定促進や生物多様性地域戦略の進捗状況を評価するため、京都市内の生物多様性保全上重要な地域をはじめとしたポテンシャル調査を実施した。

(5) 生物多様性地域資源可能性調査

昨年に引き続き、鹿背山、花背地域におけるビジネスモデル創出に向け、商品開発に向けた関係団体や企業との調整を進めた。

地域名	内容
鹿背山（木津川市）	竹のブランド化、竹の紙袋、松ぼっくりビール
花背（京都市）	アユ料理の缶詰

(6) 生物多様性に係る調査・研究

ア 生物多様性保全上のポテンシャル調査

京都市内の生物多様性保全上の重要な地域のポテンシャル調査を実施した。(再掲)

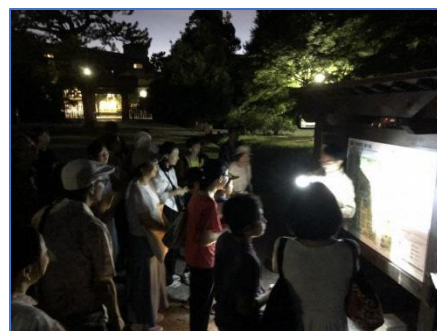
4 「継承」分野の事業

(1) 資料や情報を活用した環境学習・担い手育成及び情報発信

ア 京都ならではの生物多様性の発信

伝統文化の観点からの生物多様性を学ぶ環境学習を実施した。

実施日	内容	場所	参加者
8月23日、 24日	・「虫の音を聴く文化を学ぶ鑑賞会」 国際昆虫学会議の関連イベントとして、京都府と共催で平安時代から親しまれた虫の音を楽しむ鑑賞会を実施	京都府庁 京都御苑	40名
10月13日	・三洋化成寄付金事業「庭園文化とコケ」 日本庭園とコケをテーマに、茶室の体験も含めた講演と観察会を実施	京都御苑 拾翠亭	60名



「虫の音を聴く文化を学ぶ鑑賞会」チラシ



文化と生物多様性を学ぶ
庭園文化とコケの世界

10/13(日) ①10:00-12:30 ②14:00-16:30

会場 京都御苑 拾翠亭

対象 小学5年以上(小学生は保護者同伴)

内容 庭園やコケについてのお話、お庭でのコケの観察などを行います。

参加費 500円

申し込み 075-354-5275

「庭園文化とコケの世界」チラシ

イ 交流オフィスにおける環境学習の実施

交流オフィスにおける環境学習イベント実施や展示等による情報発信を行った。

① 主催イベント

実施日	イベント名	内容	参加者
7月22日～ 8月30日	きょうと生物多 様性センターク イズラリー	夏休みにおける子ども向け啓発イベントとして 「きょうと生物多様性センタークイズラリー」 を実施	50名
7月31日、 8月2日、 16日	みぢかな生きも の相談会	夏休み自由研究の相談会を開催（第27回国際 昆虫学会議関連企画）。冠島の昆虫標本など、 貴重な標本箱も展示	47名
10月30日	モスリウムワー クショップ	モス広河原によるモスリウムワークショップを 実施	9名
12月27日	グリーンインフ ラワークショップ	京都産業大学の学生らによる雨庭実験ワーク ショップを実施	2名

きょうと生物多様性センター
クイズラリー

★期間 2024 7/22～8/30 (平日 9:00～17:00)

★場所 左京区役所 (京都市左京区松ヶ崎ノ上町7-2)

★景品 3つの中から選べる！(先着250名様)

お問合わせ 075-354-5275

「クイズラリー」チラシ

グリーンインフラ
ワークショップ

2024年 12月27日

お問合わせ 075-354-5275

「グリーンインフラワークショップ」チラシ

みぢかな生きもの
相談会

2024 7/31・8/2・16 13:00-15:00

場所: 交流オフィス(左京区役所2階)

お問合わせ 075-354-5275

「みぢかな生きもの相談会」チラシ

モスリウム
ワークショップ

10/30(水)

お問合わせ 075-354-5275

「モスリウムワークショップ」チラシ

② 学校等の視察受入

実施日	視察等	参加者
6月11日	松ヶ崎小学校の見学	—
8月22日	京都外国語大学の視察（大学生が主導で、高校生と生物多様性について学ぶ授業のプログラムとして交流オフィスの見学と生物多様性の講義を実施。配布資料は英語で対応）	22名
10月2日	おいけあした園の園児インタビュー	5名

更に、交流オフィスでは、一般の方が気軽に京都の生物多様性について親しみ、学べるように常設展示や図書閲覧（令和7年3月末時点の配架数300冊）を行い、展示スペースについては保全活動に関する展示物を募集している。



図書閲覧



昆虫標本展示

ウ 環境学習施設等と連携した環境学習の実施

① 府立植物園と連携したサイエンスレクチャーの実施

実施日	内容	参加者
11月2日	第1回「植物と動物の共生関係 -花と果実の多様性」 講演:湯本センター長	70名
12月1日	第2回「調べてまもる地域の自然～植物園の役割～」 講演:高知県立牧野植物園 前田主任研究員	43名
1月19日	第3回「半自然草原ってな～に?草原から考える植物の保全」 講演:大阪市立自然史博物館 横川学芸員	53名
3月9日	第4回「なぜ私たちは巨木に惹かれるのか 人間と植物の多様な関わり」 講演:横浜国立大学 中臺講師	74名

② 地域の拠点施設における講師派遣やイベントの共催

実施日	内容	環境学習施設等	参加者
4月28日	アースデイ丹後「いきものがしウォーク」として公園内で自然観察会を実施	京都府立海と星の見える丘公園	70名
8月5日	「環境を学ぼう!自由研究サポート2024」を共同実施（再掲）	府立植物園、府地球温暖化防止センター	45名
2月8日	さすてな京都と連携した「かいぼり」イベントへの協力	さすてな京都	11名

エ 環境学習事業への講師派遣

小学校等における自然観察会への講師派遣を実施した。

実施日	派遣先	区分	内容
4月21日	京都八幡ロータリークラブ	自然観察会	府立植物園職員を派遣
5月25日	葵小学校	プールいきもの観察会	コーディネーターによるプールに生息するいきもの観察
6月8日	宇治田原町ことぶき大学	講演	コーディネーターによる外来種や生物多様性に関する講演
7月3日、9月25日、10月25日	嵐山東小学校	桂川フィールドワーク	外部講師の派遣、コーディネーターの参加
7月28日	歴彩館こどもカレッジ	いきもの教室「発見！ 京都いきもの図鑑」	外部講師の派遣、コーディネーターの参加
8月23日	なからぎの会	研修会	コーディネーターによる生物多様性についての講演
10月5日	京都産業大学	講座	コーディネーターによる外来種や生物多様性に関する講演
10月5日	修学院第二小学校	出前講演	コーディネーターによる「修二わくわく池」を題材とした授業
10月6日	大宮交通公園	どんぐり観察会	コーディネーターによるどんぐり観察会
10月8日	日台里山交流会	日台里山交流シンポジウム	センター長より話題提供
10月9日	養正小学校	「鴨川」の環境学習	鴨川の生きものについて生徒によるZOOMのインタビューの対応
10月16日	松ヶ崎小学校 (住友林業からの依頼)	出前授業	コーディネーターによる生物多様性の授業
10月31日	京都教育大学付属京都小中学校	外来生物」インタビュー	小中学生のインタビューにコーディネーターが対応
11月1日	弥栄中学校	出前授業（オンライン）	府地球温暖化防止センターと協力し、授業動画を作成、提供
2月11日	比叡比良トレイル運営協議会	研修会	コーディネーターが講演

オ 企業等と連携した環境教育・啓発の実施

企業等からの協賛を基にした環境教育・啓発を実施した。

実施日	企業等	内容	参加者
4月20日、 11月3日	武田薬品工業(株)	・4/20「雲ヶ畑に息づく植物と薪炭文化にふれ生物多様性保全について知ってみよう」 ・11/3「巨椋池に住む生き物と周辺の人々の暮らし」 京都薬用植物園で実施のイベントに、講師として生物多様性に関する話題を提供	4/20 35名 11/3 20名
5月25日	(株)SCREENホールディングス	・(株)SCREENホールディングス主催のたんぼの学校と併せて講師を派遣し、自然観察会を実施	56名
10月13日	三洋化成社会貢献財団	・三洋化成寄付金事業「庭園文化とコケ」(再掲)	60名
10月20日、 11月9日、 11月23日	三洋化成社会貢献財団	・三洋化成寄付金事業「落ち葉の探偵」 落ち葉の下の生きものをテーマに、生物多様性について学ぶイベントを開催 第1回 10/20 上賀茂試験地 第2回 11/9 海と星の見える丘公園 第3回 11/23 けいはんな記念公園	第1回 21名 第2回 20名 第3回 29名



武田薬品工業(株)

「落ち葉の探偵」チラシ

カ 学校や大学等と連携した担い手育成研修会

生物多様性保全に係る若手人材の育成のため、生物多様性とその保全活動について学習・体験する機会を提供している。今年度は、インターン研修生の受け入れをはじめとして、若年層を対象に府内各地域の生物多様性とその保全活動について学習・体験する研修会を実施した。

① インターン研修生の受け入れ

学校	受入期間	内容	参加者
京都産業大学	8月24日、26～29日、9月10～11日、17～18日	情報発信業務などに従事	2名

学校	受入期間	内 容	参加者
京都精華大学	8月9日、23～24日、9月18日	鳴く虫鑑賞会の音楽作成などに従事	3名
京都大学	9月17日～12月17日	大学院地球環境学舎との協定に基づき、生物多様性に関する実地業務補助及び調査の実施に関する研修を実施	1名

② 生物多様性保全研修会の実施

実施日	内 容	協力	参加者
12月15日	第1回 若手のための生物多様性保全研修会 ～森林保全を知る～「大原野森林公園保全活動」	大原野森林公園運営管理協会	2名
2月2日	第2回 若手のための生物多様性保全研修会 ～河川保全を知る 1.～「竹蛇籠と河川保全」	NPO 法人やましろ里山の会、 京の川の恵みを活かす会	17名
2月8日	第3回 若手のための生物多様性保全研修会 ～河川保全を知る 2.～「将棋頭型水制の設置」		18名



大原野森林公園保全活動



河川保全(木津川河川敷)

「若手のための生物多様性保全研修会」チラシ

キ センター事業の広報・情報発信

SNSを活用して情報発信を行うとともに、HPでセンター事業の発信を実施。

また、メールマガジンでは、随時、最新の情報を配信している。登録者数は令和7年1月時点で1,000人を超えた。3月末には、令和5年度事業報告書及びニュースレター2号を発行した。

SNS	投稿数	開設日
X(旧Twitter)	(令6年3月末)28件 → (令7年3月末)219件	令和5年8月18日
Instagram	(令6年3月末)10件 → (令7年3月末)197件	令和6年1月29日

センターのPRのため、イベント等でのブース出展を行った。

実施日	出展先	場所	内 容
4月14日	再開園3周年イベント	大宮交通公園	ワークショップ
6月15日、16日	若鮎祭り in 嵐山	嵐山中之島公園	ワークショップ
8月25日	第27回国際昆虫学会議	国立京都国際会館	パネル展示
10月16日、17日	いきもにあ	みやこめっせ	パネル展示

実施日	出展先	場所	内 容
11月3日	京田辺市環境フェスタ	京田辺市役所	ワークショップ
11月4日	左京区民ふれあいまつり	左京区総合庁舎	ワークショップ
11月30日	北エコまちイベント	北区総合庁舎	ワークショップ
12月8日	里山里海つながるフェス	イオンモール高の原	ワークショップ
2月1日	京都環境フェスティバル	京都パルスプラザ	ワークショップ

4 その他事業

(1) 持続可能な運営に向けた取組

ア 賛助会員、協賛等の募集

賛助会員企業
<ul style="list-style-type: none"> ・(株) SCREEN ホールディングス ・三菱自動車工業(株) ・(株) バイオーム ・武田薬品工業(株)京都薬用植物園 ・(株)WELLUP ・日本板硝子(株)

パートナーシップ協定企業
<ul style="list-style-type: none"> ・(公財)日新電機グループ社会貢献基金 ・(株) 京都環境保全公社 ・京都中央信用金庫

イ 国等の交付金の獲得

令和6年度生物多様性保全推進交付金(生物多様性保全推進支援事業)を獲得し、「収集」「利活用」「継承」分野の各事業を実施した。

ウ 中期計画の検討・策定

現行の「京都府生物多様性地域戦略(令和5年10月改定)」及び「京都市生物多様性プラン2010-2030(令和3年3月策定)」が目指す目標と方向性を踏まえ、きょうと生物多様性センターとして中期的(3~5年後)に取り組むロードマップの検討を進める。

エ 法人化をはじめとした持続可能な体制構築に向けた検討

今後必要に応じて検討していく。

(2) 外部資金の獲得等に応じた追加的取組

ア 保全団体や民間企業等の保全活動や啓発等の支援及び受託

行政や民間企業等が実施する調査や保全活動、啓発等事業を受託した。

受託内容	受託先
地域と連携した外来生物対策推進事業	京都府 自然環境保全課
環境教育教材作成業務	京都府 環境管理課
自由研究サポート業務	京都府 環境管理課
わきの山の里山管理調査業務	京都市環境保全活動推進協会

イ 生物多様性に係る調査・研究

次年度の調査・研究として助成事業の申請2件（タカラ・ハーモニストファンド助成事業、関西自然保護機構（KONC）研究助成事業）の検討を行った。

(3) 職員の人材育成

ア 先進地視察等や研修受講によるセンター職員の能力向上

実施日	出張先	内容
11月17日	大阪市立自然史博物館	大阪自然史フェスティバル2024の視察
11月19日 ～20日	神奈川県立生命の星・地球博物館	自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）への参加
11月30日 ～12月1日	岡山県自然保護センター 倉敷市立自然史博物館	自然環境保全京都府ネットワーク主催 博物館視察への参加

(参考) きょうと生物多様性センター組織図

1 運営協議会

運営協議会

会長：会務を総理し、協議会を代表する。

副会長：会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

監事：協議会の業務執行及び会計の状況を監査すること等を行う。

その他正会員

事務局

2 事務局

事務局長（1名）：事務局の事務及び事業の統括者

事務長（1名）：事務局の事務及び事業の副統括者

総務主幹（1名）：高度な知識等を活用する事務の推進者

チーフコーディネーター（2名）：高度な知識等を活用する事業の推進者

コーディネーター（1名、令和6年9月11日～3名）：事業の担当者